発行日　2013 年 6 月 20 日（隔月 20 日発行）　通巻 302 号

日本国際ボランティアセンター　会報誌
トライアル・アンド・エラー（試行錯誤）

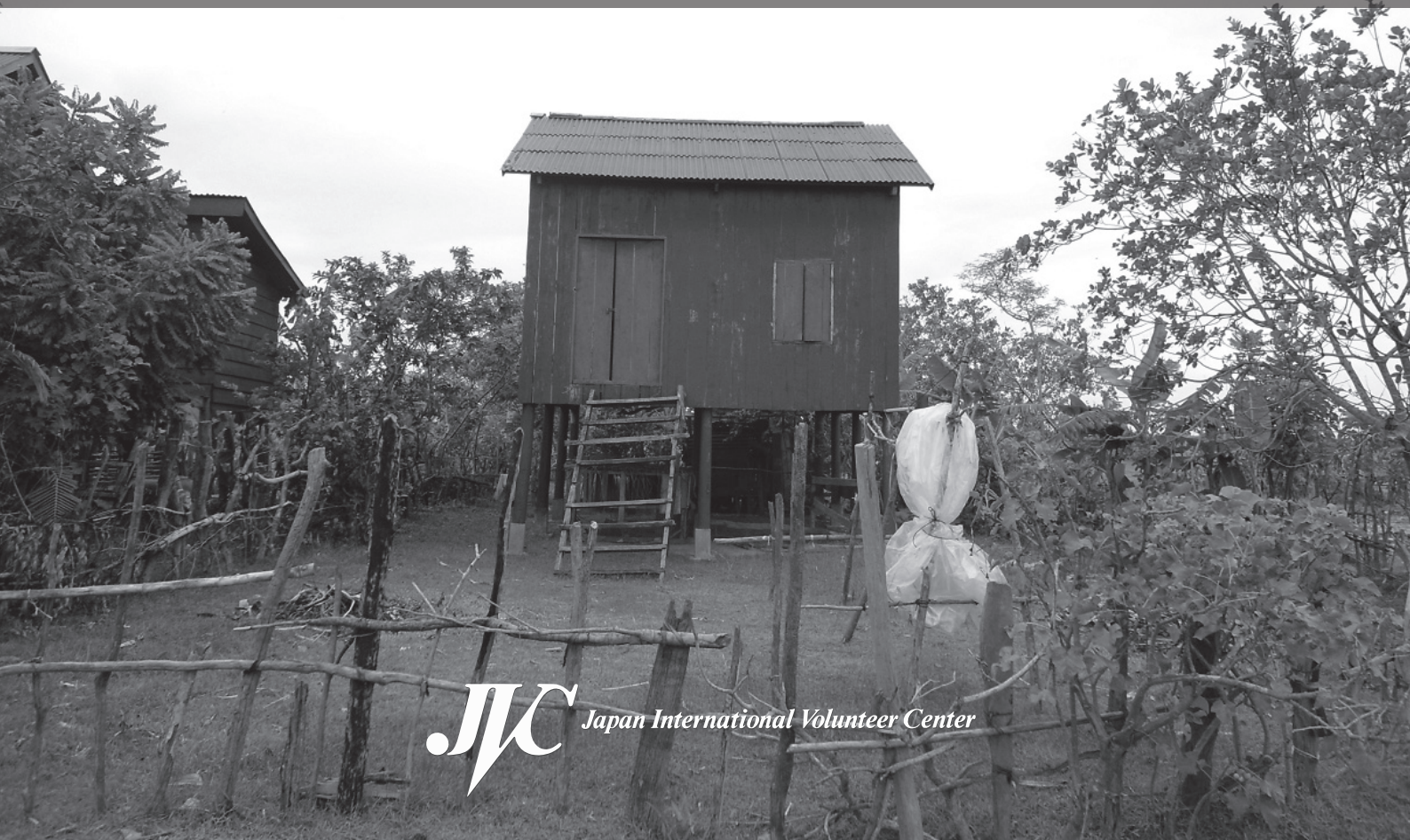
# Trial & Error

No.302
July-August 2013

特集

## アジアを包みこむ新しい貿易協定の行方

写真上：経済発展がすすむカンボジアの首都プノンペン。高層ビルも珍しくなくなった。
写真下：同じカンボジアの農村地域で見かけた、出稼ぎに出た家主を待つ空き家。門もしっかり閉ざされていた。



JVC Japan International Volunteer Center

特集

# アジアを包みこむ新しい貿易協定の行方

TPP や RCEP など、昨今のアジア周辺における自由貿易協定の潮流は、以前からの南北問題・南南問題の延長線上の「人・モノ・カネ・資源（安い労働力や土地＆資源収奪など）」だけでなく、新しい分野（金融、知的所有権、政府調達など）においても国境を越えて各国に影響を及ぼすものだ。「経済発展を推進」させるためのこうした協定の傘の下で、人々の暮らしはどうなるのか。（編集部）

## モノとカネ「だけではない」自由化は何をもたらすか

農業ジャーナリスト　大野 和興

日本ではＴＰＰ（環太平洋経済連携協定）交渉参加問題が国論を二分する政治問題となっている。貿易と投資、モノとカネの自由化を進める協定はなにもＴＰＰに限らない。自由貿易協定（ＦＴＡ）をめぐる動きは世界中にあり、特に成長センターとして世界の経済の中心軸となった東アジア（東北アジア・東南アジア）と西アジアには、網の目のようなＦＴＡ網がかぶさっている。グローバリゼーションの大波が押し寄せるアジアに暮らす生活者にとって、この現実は何をもたらすのか。

### ■アジアを覆う自由貿易・経済連携網

アジアの自由貿易網をみる場合、日本からとか中国からという視点（米国の場合はもっぱら米国の視点で）が普通だが、ここでは軸をＡＳＥＡＮ（東南アジア諸国連合。ブルネイ、カンボジア、インドネシア、ラオス、マレーシア、ミャンマー、フィリピン、シンガポール、タイ、ベトナム）に視座を置いてみていくことにする。アジア地域のＦＴＡはＡＳＥＡＮが真ん中にあって、中国、韓国、日本の三ヵ国、さらにはインド、オーストラリア、ニュージーランドといった西アジアや太平洋諸国に拡大しているからだ。

ＡＳＥＡＮを軸にすでに存在する自由貿易協定や経済連携協定には別表のようなものがある。数が多いので抜け落ちているものもあるかもしれないが、おおむねこんなものだと思う。

この別表をみてもわかるように、ＡＳＥＡＮはすでに日本、中国、韓国とは別個に自由貿易協定を結んでいる。またＡＳＥＡＮ内のそれぞれの国が個別の自由貿易協定を結び、アジアの上をＦＴＡ網が縦横に貼りついている感じだ。最近の特徴は、これらの上に、さらにアジアを大きく包み込む自由貿易協定構想が動き出しているということである。しかもその動きは単線ではなく、さまざまの利害が交錯する複数の動きが重層的に重なっている。次のようなものだ。

①日中韓ＦＴＡ（別個に日韓ＦＴＡ、中韓ＦＴＡを追求する動きもある）
②ＡＳＥＡＮ＋３（日・中・韓）
③ＡＳＥＡＮ＋６（日・中・韓・オーストラリア・ニュージーランド・インド）
④ＴＰＰ（ニュージーランド、オーストラリア、アメリカ、カナダ、メキシコ、ペルー、チリ、マレーシア、シンガポール、ブルネイ、ベトナム）

このうち、「ＡＳＥＡＮ＋６」は略称ＲＣＥＰ（アールセップ）と呼ばれている。東アジア地域包括的経済連携（Regional Comprehensive

■ ASEAN および関連国における、主に 2 国間（2 者間）の経済連携／貿易協定。

ASEAN ＋各国：

- ASEAN 自由貿易地域 (ASEAN Free Trade Area)
- ASEAN・インド自由貿易協定 (AIFTA)
- ASEAN・オーストラリア・ニュージーランド自由貿易協定 (AANZFTA)
- 日本・ASEAN 包括的経済連携協定 (AJCEP)
- ASEAN・韓国自由貿易協定 (AKFTA)
- ASEAN・中国自由貿易協定 (ACFTA)

各国別：

- タイ・オーストラリア経済連携協定 (TAFTA)
- オーストラリア・合衆国自由貿易協定 (AUSFTA)
- インド・韓国包括的経済連携協定 (IKCEPA)
- インド・シンガポール包括経済協力協定 (ISCECA)
- シンガポール・オーストラリア自由貿易協定 (SAFTA)
- 韓国・シンガポール自由貿易協定 (KSFTA)
- EU・韓国自由貿易協定
- 米国・シンガポール自由貿易協定 (USSFTA)
- 中国・シンガポール自由貿易協定 (CSFTA)
- 日本・インドネシア経済連携協定 (JIEPA)
- 日本・マレーシア経済連携協定 (JMEPA)
- 日本・フィリピン経済連携協定 (JPEPA)
- 日本・シンガポール新時代経済連携協定 (JSEPA)
- 日本・タイ経済連携協定 (JTEPA)
- 日本・ベトナム経済連携協定 (JVEPA)

※順不同

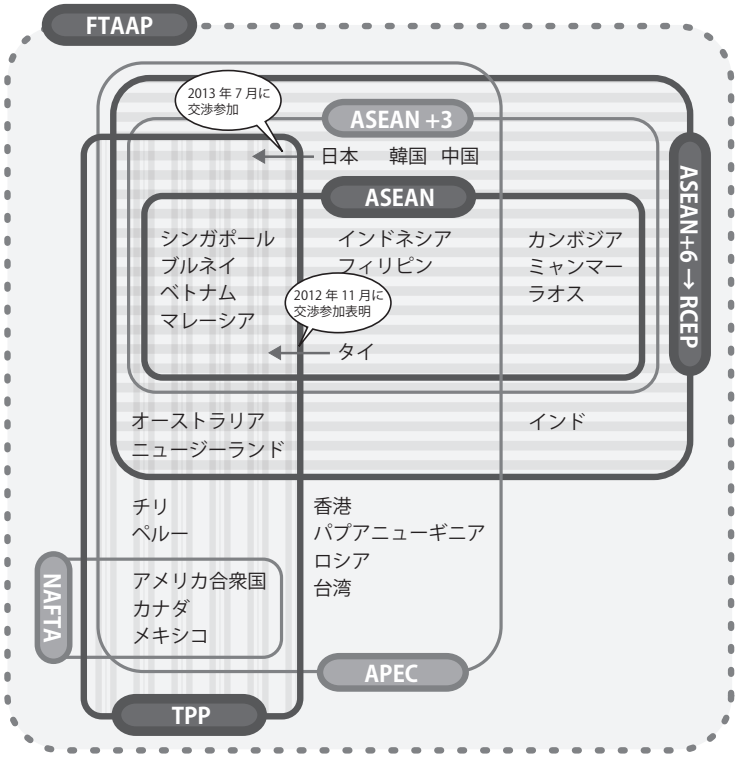
■ TPP の交渉対象 21 分野。メディアでそれぞれの分野における日本加盟時のメリット・デメリットがよく報道される。どうしても自分自身に関連する分野にのみ注目して「自分にとって有利だから賛成（不利だから反対）」という単純な「ポジショントーク」に陥りがちだ。しかし、交渉が多分野にわたるということは、食の安全、医療、農業、保険、労働など生活と命に関わる数多くの分野に影響を与えうるということでもある。自身の関心以外の分野や他国側からみた思惑、本文にある他国での先行事例なども考慮し、その上で社会制度や人権、ありうべき社会規範といった観点から考えてみてもいいだろう。（編集部）

物品市場アクセス、原産地規制、貿易円滑化、SPS（衛生植物検疫）、TBT（貿易の技術的障害）、貿易救済（セーフガード等）、政府調達、知的財産、競争政策、越境サービス貿易、商用関係者の移動、金融サービス、電気通信サービス、電気商取引、投資、環境、労働、制度的事項、紛争解決、協力、分野横断的事項

Economic Partnership）の略称である。RCEPの交渉は二〇一三年五月のブルネイで開始され、二〇一五年までに妥結を目指すとしている。TPPを主導する米国は、将来はTPPとRCEPを合流させて、APEC（アジア太平洋経済協力）を包括するアジア太平洋自由貿易圏（FTAAP）を構築したいと構想している（左図参照）。

## ■各国の動き

こうした自由貿易網は人びとの暮らしや地域、働く場にどんな影響をもたらすか。まずその将来像を想像してみる。アジアと太平洋をまたぎ包みこむFTAAPができあがったとき、地域の社会と経済を律する基準はどういうものになるのだろう。答えは、いまTPPでつくりあげられようとしている基準になるということである。日本の政府がTPP参加をあせっているのも、これに乗り遅れたら将来、アジア太平洋地域という経済成長のセンターの貿易や投資などに関するスタンダード作りに関与できず、経済競争で不利になるという理由からである。そのスタンダードとはアメリカ型の市場至上主義システムだといえる。社会を成り立たせている規制を取り外し、公共部門をできるだけ民営化して民間資本が投資しやすくなる条件を国境を越えてつくりだすシステムと言い換えてもよい。この仕組みをアジア太平洋地域に行き渡らせることで、米国や日本の大企業はこの広大な市場を獲得できることになる。




■ ASEAN を中心とした多国間での経済連携／貿易協定。

TPPの原型は一九九四年に発効したNAFTAであり、二〇一二年三月に発効した米韓FTA（米韓自由貿易協定）だと言われている。NAFTAとはアメリカ・カナダ・メキシコで締結された北米自由貿易協定である。この協定で、三ヵ国のなかでもっとも経済力が劣ったメキシコで何が起きたか。五月末から六月にかけ、日本の市民グループ「TPPに反対する人々の運動」が開いた反TPP国際シンポにゲストとして来日したメキシコ通信労組の活動家のマリカルメン・モンテスさんはその様子を次のように話した。

NAFTA発効後、メキシコでは一連の規制緩和が進み、農業を含む全産業、そして農民と労働者に大きな影響を与えた。三ヵ国間の競争に勝つためと称して、企業はそのためのしわ寄せをすべて労働者にかぶせた。一九八七年には家族の中で一人が働けば家族を養うことができたが、二〇〇〇年には二人が働かなければ生活できなくなり、二〇一二年には三人が働いても最低生活さえ維持できなくなった。職場では労災が激増、最低賃金は、マリカルメンさんによると「中国の最賃を下回るまでになった」。

トウモロコシの原産国で豊かな食糧供給を誇っていたメキシコだが、今や輸入国に。NAFTA発効前は、食料貿易で年六億ドルの黒字を出していたのが、いまでは二十一億ドルの赤字国に転落、農家が受け取る農産物価格は低落。千八百万人の農民の多くが土地を離れて米国への移住労働者になった。米国は九三年に約十億ドルだったメキシコ国境監視費を九九年には二十六億ドルに増やさざるを得なかった。

韓国の場合はどうか。韓米FTAはまだ発効して一年なので統計数字では目立った変化はないが、韓国社会の深層ではある種の社会崩壊を予感させる事態が進んでいる。前述の国際シンポに招いた韓国の社会運動体

## TPPに関する政府と市民の意見交換会

JVC代表／「市民と政府によるTPP意見交換会」全国実行委員会委員　谷山 博史

昨年二月にJVCを含むNGO有志は、TPP参加表明前に徹底した情報公開と市民との協議を求める要請書を内閣総理大臣に提出した。この要請をもとに政府と交渉した結果、一二年内に東京、大阪、名古屋・岐阜の三ヵ所で政府高官が参加する「市民と政府によるTPP意見交換会」が実行委員会形式で実現した。十二月始めの時点で、TPP担当部局である内閣官房国家戦略局事務局との間では神戸、福岡での意見交換会開催が予定されており、全国十ヵ所での意見交換会開催を目標にするとの合意もなされていた。情報公開と市民との協議を求める運動は全国に広がり、現在では北海道から九州まで十ヵ所で地域実行委員会が形成されるに至った。

しかし、年末の総選挙での政権交代、安部内閣によるTPP交渉参加表明と交渉参加十一ヵ国との事前協議合意を境に、内閣官房は市民との意見交換会の実施に後ろ向きなり、今後の予定は白紙の状態が続いている。今、実行員会は政府が計画している「説明会」を特定の業界とのものだけでなく広く市民が参加できる市民説明会にすること、またTPP参加について広く意見を求めるパブリックコメントの実施を働きかけている。

「韓米FTA阻止汎国民運動本部」共同代表のパク・ソグウンさんの報告によると、短期の投機的資本の流入の激増と韓国製造業の海外生産移転が交差状に進んでいる。韓国・EU間のFTAも重なって、豚肉の輸入増によって養豚農家は苦境に陥り、褐色の韓牛と呼ばれる牛を飼育する肉牛農家の間では、先行き不安からまだ子牛を産める母牛を投げ売りする動きが広がっている。

こうしたメキシコと韓国からの報告は、これからアジア太平洋地域で起こることの予兆とみることができる。ASEANの有力国タイ、再任直後アジアを歴訪したオバマ大統領との会談でインラック首相はTPP参加を表明した。しかしタイでは以前、時の政府が交渉中のタイ米FTAを農民市民の反対で中断に追い込んだことがある。タイ米FTA交渉は〇四年にはじまった。世界一の大国に国内市場を提供するこの交渉に、市民団体は農民団体の反発は強く、〇五年暮れにチェンマイで開かれた協議では、大勢の人たちが会場を取り巻き混乱、タイ側交渉団の団長の辞任問題を引き起こした。その後、タクシン政権をめぐる政治混乱がはじまり、交渉が中断、現在に至り、TPP参加が浮上したものだ。米国とのFTA交渉では、タイの有力輸出商品であり、タイの人々がおいしいと好んで食べるジャスミン米（香り米）の遺伝子組み換え種がFTA締結と同時にアメリカからタイに入ってくる恐れがあると警戒されていた。

最近の動きでは、当初からTPP交渉に参加しているマレーシアの経済界で、TPP参加を警戒する声が出ている。マレー人経済行動委員会（MTEM）が六月四日に記者会見を開き、「マレーシアの国内企業、とくに中小企業が米国などTPPに参加する大国の企業との競争に太刀打ちできずに大きな打撃を受けるばかりでなく、米国から補助金の援助を受けた安い穀類や小麦が流入することで、国内農業が打撃を受け衰退するリスクを負うことになる」と懸念を表明した。

### ■国境なき医師団の警告

紛争地、貧困地帯の医療を担っている国境なき医師団も、TPPに代表されるFTAに懸念を表明している。同医師団が※注①二〇一三年二月に出した声明は次のような書き出しで始まる。

「TPPは、交渉がまとまる前に有害な条項を取り除かない限り、開発途上国における医薬品入手の機会を阻む、最悪の貿易協定になるおそれがある」

「国境なき医師団は米国政府に対し、医薬品入手の機会を阻む条項を取り下げ、その他すべての交渉参加国に対しこれらの条項を拒否するよう強く求める」

ここで国境なき医師団が訴えているのは、TPP交渉で米国が主張している知的財産権の強化が実現したら、製薬企業の特許とデータ保護の権利が強化され、安く提供されていたジェネリックとよばれる後発医薬品の供給ができなくなってしまうというものだ。医師団の声明は次のように指摘する。

「保健衛生分野では、ジェネリック医薬品による競争が命を救う。医療援助を提供する団体である国境なき医師団も、結核やマラリア、HIV／エイズなどの病気や、最貧で病気にかかりやすい人びとを苦しめる感染症の治療活動において、高品質で低価格のジェネリック医薬品に依存している」

「ジェネリック薬による健全な価格競争によって、抗レトロウイルス薬の第一選択薬の価格は、過去十年で九九％減少した。これによりHIV／エイズ治療の規模は拡大し、今日、途上国で八百万人以上の患者が受けられるようになっている。しかし、新しい薬の多くは特許による独占権が守られ、製薬企業が高い価格を維持し、極めて重要な医薬品が途上国の人びとの手に届かない状態となっている」

莫大な研究費をかけて開発した知的財産権、特許権の強化は、米国のような国の製薬企業にとって利益の源泉であろう。しかしそれは、生命を守る医薬品が特許権で守られることで、貧困者や途上国の人びとにとって「高嶺の花」となってしまうことを意味する。

### ■企業の利益か生活の基盤か

自由貿易協定や経済連携協定は、大企業による投資の自由を守ることを通して人びとの生命さえおびやかす存在になることを、国境なき医師団の声明は警告しているのである。こうした問題は医薬品だけでなく、農業や食べ物、労働条件、自然環境といった人びとの生存の基盤となっているすべてのものに、形を変えて襲いかかると考えてよい。

※注①　本文：http://www.msfaccess.org/content/trading-away-health-trans-pacific-partnership-agreement-tpp

■ JVC 活動地の町なかにも農村金融の看板が目立つ。

JVC 活動地のひとつであるカンボジアは、現在 TPP 加盟は予定されていないようだ。しかし 99 年に ASEAN に加盟、04 年には WTO にも加盟している。仮に前述の RCEP（≒ ASEAN+6）、一歩進んで FTAAP が実現して規制緩和による貿易の自由化が今以上に進めば、「（貿易などによる）国際的な分業体制」はよりむき出しな競争原理をカンボジアの人々にも強いることになるだろう。（編集部）

# カンボジアと貿易協定 ～その加盟を巡る問題と農村への影響～

ＪＶＣカンボジア事務所 ＣＬＥＡＮ環境教育担当　樋口 正康

## ■現在はＴＰＰ未加盟だが

ＴＰＰ加盟を巡って、東南アジア諸国内では加盟を決めている国とそうでない国があり、その反応は別れている。カンボジアはＴＰＰ未加盟の後者であり、そもそも国内でＴＰＰ加盟の是非を問う議論はされていない。カンボジア政府の傾向として、対中関係に最大限の配慮をしており、中国の動向がこうしたことへも大きな影響を与えていると考えられる。

人、モノ、金、情報などが自由に往来し経済が活性化するという事だけを聞けば、多くのカンボジア人はこうしたＴＰＰのような貿易協定に賛同するであろう。しかし、もしカンボジアが今後ＴＰＰ加盟の方向に進むにしても、私は時期尚早であると考える。そもそもそれ以前に解決すべき課題がこの国には多くあり、またこうした議論においてはマクロ的な経済指標ばかりが取りざたされる傾向が強く住民の実際の暮らしへの影響がどれだけ考慮されるのかも測りかねるからである。

## ■貿易自由化の影響に対する補償は

日本ではＴＰＰ加盟によって生じる様々な影響に関して世論を二分しているようだが、ここカンボジアを想定すると、こうした貿易協定が及ぼす人々の生活への影響に対する補償という点に触れなければならない。以前からカンボジア全土で起きている土地の強制収容のケースから考えるに、この場合においても、負の影響を受ける国民への適切な補償を期待することは難しいだろう。プノンペンのボンコック湖周辺住民の強制移転に関わる問題もいまだに尾を引き、現在も移転補償や再定住支援は十分ではない。補償を巡るデモに関係した住民が投獄されるなど、政治的責任の糾明も行なわれていない。

## ■農村金融の活性化も

こうした貿易協定によって自由化が進むことで、カンボジアの農村にも様々な影響が及ぶだろう。そのひとつに、農村における小規模金融がある。ＪＶＣ活動地の中心地であるコンポンクダイにも小規模金融を実施している組織が数えられるだけでも現在六社あり、農村各地で農民を対象とした貸付サービスを提供している。海外からカンボジアに更に資金が流入すれば、潤沢な資金を背景に融資はさらに活性化するであろう。

こうした小規模金融は従来の高利貸しよりは利子が低く借りやすいというメリットがある反面、投資家から資金を調達するために高い回収率を維持する必要があることから、返すために他から借りるといった多重債務に陥るケースも多く、最終的には土地を担保の融資となり、そこでお金を返せないとその場所で暮らせなくなる、といったリスクも指摘されている。

## ■変わる農村の風景と暮らし

また、隣国タイの経済成長に伴って、農民の出稼ぎは後を絶たない。タイ人の人件費が上がり、農業、建設業、漁業に必要な労働者が不足し、人件費の安いカンボジア人が重宝されている。ある日系ＮＧＯの話では、労働人口の三～四割がタイに出稼ぎに出ている村もあるそうだ。ＪＶＣの活動地でも二割を超える住民がタイに出稼ぎに行っており、家主がいない家屋が目につく。貿易協定によって労働力の移動がいままで以上に容易になれば、カンボジア農村からの出稼ぎは更に増えると予想される。

出稼ぎによって得られる収入は魅力的である一方、人材流出が続けば農村は活気を失うだろう。両親もしくは片親が出稼ぎに出て親類にあずけられる子どもを活動地でもよく見かけるが、長期間親と離れて暮らす子どもたちが不憫でならない。経済指標だけでは明るみに出ない負の影響が、この国の農村地域を着々と飲み込もうとしているように感じられる。

# 東京事務所（23 名）

*後列（7 名）左から：下田、広瀬、池田、小野山、細野、長谷部、平野*
*中列（5 名）左から：石川、佐伯、磯田、加藤、白川*
*前列（5 名）左から：寺西、宮西、谷山博、稲見、島村*
*左枠左列・上から：山崎、高橋、谷山由*
*左枠右列・上から：西、藤屋、渡辺*

**谷山 博史**（代表理事）
農業 4 年目、阿波踊り 2 年目、町内会 1 年目を完遂し、語りの広場「JVC 居酒屋」を広める。

**磯田 厚子**（副代表）
JVC のアジアでの活動経験と成果を現場の皆とふり返り、新たな展開を図るぞ！

**長谷部 貴俊**（事務局長）
酒量を抑え、読書の時間を十分取り、さまざまな人と話し合う。

**山﨑 勝**（カンボジア事業担当）
早寝早起きを心がけ、風邪をひかないようにする。

**平野 将人**（ラオス事業担当）
微かな魚信にアワセて食い込ませ、しっかり巻き上げてバラさない。沖でも陸でも。

**渡辺 直子**（南アフリカ事業担当）
猫と心穏やかに過ごして心身ともに健康を保つ。

**小野山 亮**（アフガニスタン事業統括）
現地スタッフに日本語の盛り上げ言葉など紹介。皆で盛り上がる。ヨッ！オッ！

**加藤 真希**（アフガニスタン事業担当）
気づけば中学生の時から同じ曲しか弾いていないピアノ。レパートリーを増やしたい。

**谷山 由子**（震災支援担当 / アフガニスタン事業担当補佐）
町内会では若手として、JVC では古株として、三味線片手に裏方で皆さんを支えます。

**西 愛子**（アフガニスタン事業保健アドバイザー）
出水特攻基地遺跡ツアーのガイドに認定され、自分流の平和アピールを模索します。

**佐伯 美苗**（スーダン事業担当）
Islamic Auditing の勉強を地味に続ける。宿題は他にも沢山あるけど…。

**寺西 澄子**（コリア事業担当 / 会員担当）
ひきこもり体質改善。コリアのおもしろ話します、皆さんのまちに呼んでください。

**下田 寛典**（緊急支援担当）
「限界集落を大丈夫村に！」を謳う長崎県五島市の半泊（はんどまり）に行きたい！

**白川 徹**（震災支援担当）
30 歳目前にして夜間の大学院に。日中と日が落ちた後、二重生活の両方の充実を！

**高橋 清貴**（調査研究・政策提言担当）
（多忙につきコメントをいただけませんでした）

**藤屋 リカ**（海外事業担当）
「あんちょこ」と言ったら、若者から「パンですか？」。言語世代間格差を克服する。

**池田 未樹**（経理担当）
抱負やろ。ことしは東京弁マスターやで！！

**稲見 由美子**（経理担当）
「買わない生活」＝「ものを増やさない」。

**広瀬 哲子**（広報担当）
埼玉県小川町で「無農薬で米作りから酒造りを楽しむ会」に参加します。

**宮西 有紀**（支援者担当）
素直に謙虚にアクティブに！そして、鍛錬あるのみ。

**細野 純也**（会報誌レイアウト / 総務担当）
昨年の『本職の技量をより磨く』のほかに、今年は本職以外の技量も磨きます。

**島村 昌浩**（カレンダー事務局）
月に数回になってしまったジム通いを以前のペースに戻す。

**石川 朋子**（コンサート事務局）
ラジオ体操を続ける。

※パレスチナ事業担当は 7 月に新しく着任予定です。

# JVC STAFF 2013

今年度の抱負を聞きました

*左から：ソマッチ、ティアラット、樋口、サリー、リツ、ソッカ、バロマイ、コン、チャントーン、ブティ、ポンロック*

**若杉 美樹**（前現地代表）
運動不足を解消するため、排気ガスに負けず自転車通勤でダイエット！

**坂本 貴則**（現地代表代行）
娘にひらがなを憶えてもらう。

**サム・ネアリー**（CLEAN シニアスタッフ）
英語の勉強、10 年の JVC 経験をスタッフと共有、エクササイズで体を鍛えたい。

**ポーク・コン**（CLEAN シニアトレーナー）
健康のために、ダイエットします。

**ブン・バロマイ**（CLEAN フィールドスタッフ）
修士号を取りたいです。

**ミエン・ソマッチ**（CLEAN フィールドスタッフ）
大学があと一年なので無事終えて、バイクを買いたいです。

**ロス・ポンロック**（CLEAN フィールドスタッフ）
修士号を修了して、彼女と結婚したいです。

**シアン・サリー**（CLEAN フィールドスタッフ）
妻と息子と住める家がほしい。5 年後は、車を買います。

**モーン・ソッカ**（CLEAN 試験農場責任者）
健康第一。家族が安泰でありますように。家族のために稼ぎます。

**樋口 正康**（CLEAN 環境教育担当）
自分の生活を見直し、心技体を磨く。

**ソック・チャントーン**
（CLEAN 環境教育シニアトレーナー）
妻と愛娘をシアヌークビルのリゾートに連れていって、家族サービスをしたい。

**セン・ティアラット**
（CLEAN 環境教育フィールドスタッフ）
学業と仕事での経験を積んで、生活の苦しい人を助けたい。

**ヒア・ブティ**（CLEAN 環境教育フィールドスタッフ）
お金を貯金します。英語を勉強します。

**イン・コック・エン**（資料情報センター（TRC）司書）
健康第一。TRC 利用者を増やして、蔵書が学生などの役に立ちますように。

**ヘン・チェン・ンガウ**（総務担当）
アメリカで暮らす母に早く会いたいなぁ、JVC の仕事も頑張るぞ。

**パオ・リツ**（CLEAN 運転手 / 総務補佐）
奥さんの収入が減ってしまった、何とかできないかなぁ。

**ケオ・コニタ**（会計担当）
（新人なので）早く仕事に慣れるよう努力する、他のスタッフと良い関係を作りたい。

**サー・スイネン**（清掃担当）
健康が一番なので、今年も気をつけます。

**ポム・ボン・ルーン**（運転手 / 環境教育総務担当）
プノンペンからシェムリアップの 300 キロを安全運転！

**ダン・ソン**（警備 /TRC 補佐）
とにかく事務所の安全を守ることと、JVC の備品をきちんと管理したい。

**チン・ブン・ヒエン**（警備 /TRC 補佐）
今年勤続 13 年目に突入。コンポンスプーで堆肥作りをもっと進めたい。

**持田 亜季**（インターン）
クラチェ県で河イルカを見る！

## エルサレム事務所（2名）

**今野 泰三**（現地代表）
情報収集・発信力の向上。不条理な占領と封鎖に負けない笑いのセンスも磨きたい！

**金子 由佳**（現地調整員）
事業の継続性を担保できるように資金確保に励む！

## 気仙沼事務所（3名）

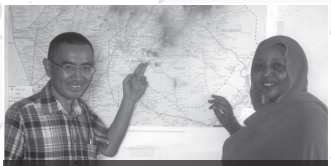
**山崎 哲**（震災支援現地統括）
甘いもの・カフェイン・ビール・カツカレーをひかえる。体をやわらかくする。

**岩田 健一郎**（震災支援担当）
麻雀、釣り、三線（さんしん）…一時中断中の趣味を、今年こそは再開したい！

**石原 靖士**（震災支援担当）
余暇を充実させる。

*左から：石原、山崎、岩田*

## スーダン事業（3名）



*左から：今井、モナ、イスマイル*

**今井 高樹**（現地代表）
温泉行ってのんびり。

**モナ・ハッサン**（プログラム・コーディネーター）
去年博士号を取った論文を出版する。

**イスマイル・ジュマ**（フィールド・オフィサー）
英語学校に通い、国際NGOスタッフとしてちゃんと英語が話せて書けるようになる。

## ラオス事務所（12名）

*後列（7名）左から：レノル、センチャン、グレン、フンパン、ニポン、ホム、センスリー*
*前列（4名）左から：オバンティーン、アロニー、林、ホンケオ*
*枠内：スマリー*

**グレン・ハント**（現地代表）
妻と子育てを頑張ります！仕事に打ち込むために睡眠が十分とれますよう。

**林 真理子**（駐在員）
スタッフや村人ともっと話ができるように、記憶力を鍛え直してラオス語に励む。

**フンパン**（農業チームリーダー）
故郷に帰りたがっている妻を励ます。政府とJVCの仕事のすみ分けをする。

**センスリー**（農業チーム）
JVCとカウンターパートとの関係が良くなるようにできることをしたい。

**オバンティーン**（農業チーム）
活動や英語など色々なことを学び、NGOの仕事を続けたい。

**ホンケオ**（森林チーム）
ナケー村で共有林の設置が終了できるよう、村人と進めていきたい。

**ニポン**（森林チーム）
JVCに入ったばかりだけど、村人の生活が良くなるよう頑張って仕事したい。

**レノル**（森林チーム）
英語を上達させて、昨年度に続き、国際会議などにもっと出てみたい。

**センチャン**（森林チーム）
森林チームと農業チームが一緒に活動できるようにしたい。

**アロニー**（会計担当）
英語が上達しますように。

**スマリー**（庶務担当）
家族で海外旅行に行きたい。仕事で迷惑をかけないようにする。

**ホム**（運転手）
息子が大学の技術コースでいい成績をとれますように。

## 南アフリカ事務所（4名）

*左から：アルバート、冨田、ドゥドゥジレ、アベル*

**冨田 沓子**（プロジェクト・マネージャー）
トラブル続きだった事業の調整が落ち着いて、村でのんびり井戸端会議ができますように。

**ドゥドゥジレ・ンカビンデ**（プロジェクト・コーディネーター）
ここ数年抱負を達成できたことがないので、今年の抱負はなし。ありのままに生きます。

**アルバート・ラジラニ**（会計担当）
パートタイムで大学に通い、今までできなかった学業を進めたい。

**アベル・コマネ**（有機農業トレーナー（業務委託））
家を建てること。将来家族をもつためにすこしずつ準備をはじめたい。

## 在タイ（1名）

**森本 薫子**（現地駐在員）
再びスタッフとして復活！まだまだ続くJVCタイ！応援よろしくお願いします！

※本誌裏表紙で、森本著『タイの田舎で嫁になる』を紹介しています。

## カンボジア事務所（22名）

*後列（5名）左から：ソン、ルーン、スイネン、ネアリー、コニタ*
*前列（3名）左から：エン、ンガウ、若杉*
*右枠上から：坂本、ヒエン、持田*

# アフガニスタン事務所（32 名）

後列（14 名）左から：ラヒーム、サビルッラー、パチャ、イザトゥッラー、ワハーズ、デラワール、ミル・ジャマール、ジャハン・ミール、ザマヌラー、ラジーク、シャー・モハンマド、シャプール、ナビ・ジャン、ライーズ
前列（4 名）左から：イサヌラ、サファラガ、アジマール、グラライ

左から：ジャナット・グル、フルシード、ハビブラフマン、カン・ミル

左から：ファティマ、バスミナ、ワシマ

右枠左列・上から：ナシーム、アシール、トラブ・カーン、シャハブディン
右枠右列・上から：ファゼル・ハク、ワグマ、シャムシー

**サビルッラー・メムラワル**（治安／総務担当）
アフガニスタンでの平和に関するあらゆる活動に関わっていきたい。

**モハンマド・シャプール・サフィ**（医師／医療事業責任者）
2014 年を前に、平和が訪れてほしい。

**アブドゥル・ワハーブ**（医師／地域保健責任者）
アフガニスタンの人々が、2014 年の課題をうまく乗り越えることを望む。

**ジャハン・ミール**（医師／診療所所長）
一生懸命働いて、マイホームを持つ。

**シャムシー・グル**（診療所助産師）
助産師から医者になり、もっとアフガニスタンのために貢献したい。

**モハンマド・ラヒーム**（診療所看護師）
アフガニスタンのためによく働きたい。

**グラライ**（診療所検査技師）
もっと結核に関する分析調査を行なって地域から結核をなくしたい。

**ライーズ・アフマッド**（診療所薬局担当）
人々に心から奉仕したい。

**フルシード**（ワクチン接種担当）
アフガニスタンの平和のために、他のアフガニスタン人の兄弟とともに働きたい。

**ファゼル・ハク**（ワクチン接種担当）
自分の仕事に全力を尽くしたい。

**ハビブラフマン**（診療所守衛）
地域のためにもっと一生懸命働きたい。

**ジャナット・グル**（診療所守衛）
JVC のスタッフとしてもっと働きたい。

**カン・ミル**（診療所庭師）
仕事の質をより高めていきたい。

**モハンマド・ナシーム**（医師／簡易診療所所長）
日本の人々からの継ぎ目のない支援がアフガニスタンに届くことを望みます。

**ワグマ**（簡易診療所助産師）
人々がお母さんや子どもの健康を改善するために働いてほしい。

**ミル・ジャマール**（簡易診療所薬局担当）
アフガニスタンが、平和で統一性があり安全で慈悲にあふれた国になってほしい。血を流す戦争で自分は中立な立場だ。

**アシール・モハンマド**（簡易診療所守衛）
クズカシュコート村の診療所をもっとよくしたい。

**シャハブディン**（簡易診療所守衛）
アッラーのご加護のもと、地域に真摯に貢献できますように。

**ファティマ・カディム**（地域保健担当）
世界中が平和になってほしい。

**ワシマ・ババケルヒル**（地域保健担当補佐）
アフガニスタンから戦争が永遠になくなってほしい。

**アジマール・クラーム**（教育支援担当）
知識をさらに高めたい。日本語の勉強を始めるつもりなので、日本の人々と話したい。

**サイード・サファラガ**（調達／総務担当）
子どもたちにもっと愛を注ぎ、楽しい時間をすごしたい。

**イサヌラ・カタック**（経理担当）
会計に関する専門的な資格を取りたい。

**トラブ・ハーン**（経理補佐）
家族と過ごす時間を増やしたい。友人をたくさん作りたい。

**バスミナ**（調理担当）
私の子どもたちに快適な生活を提供したい。

**デラワール**（守衛主任）
私の家族にとってよりよい未来が実現できるよう努力したい。

**イザトゥッラー**（守衛）
女性の権利が守られる社会になってほしい。

**アブドゥル・ラジーク**（守衛）
マイホームがほしい。

**ナビ・ジャン**（守衛／運転手）
妻が長年病気なので元気になってほしい。

**アガ・グル・パチャ**（守衛／運転手）
子どもたちにアフガニスタンの外で教育を受けさせてあげたい。

**ザマヌラー・メムラワル**（守衛／運転手）
子どもをしっかり教育し彼らにとって最高の父親でありたい。

**シャー・モハンマド**（運転手）
メッカへ巡礼したい。

# 「子どもたちの明るい姿も、日本に伝えてください」

コリア事業担当　寺西 澄子

東アジア各国の子どもたちが共同でつくる絵画展『南北コリアと日本のともだち展』。今年もその準備が始まった。6月上旬に打ち合わせのために平壌に出張した際の模様を報告する。(編集部)

## ■「平和」を感じる きっかけづくり

昨年末の「衛星打ち上げ成功」、今年二月の「核実験」。四月には南北協力事業のパイプをつなぎ続けてきた開城（ケソン）工業団地の操業が停止、韓国側の労働者の退去が求められる事態となった。北朝鮮は挑発外交をエスカレートさせている、核保有を食い止めよ、ミサイル防衛で断固対処すべき…。日本では緊張を強いられるニュースばかりがあふれる新年度のスタートとなった。

そもそも昨年来、日朝どころか、日中、日韓関係も良好とは言えない。政権交代のあと、それぞれの国の主張ばかりが声高に叫ばれ、外交で解決するより安全保障で外壁を固めることが優先された。それでも、韓国の協力団体オリニオッケドンムからは日本への非難ではなく、「どの国の為政者も未来へのビジョンを示せないこの状況で、子どもたちのこと、地域の平和のことを考え続けてきた私たちは、より大きな役割を果たせるはず」との力強い言葉が届き、あらためて「平和」とは何か、ともに東アジアの仲間と考えてみたいとの思いを新たにした。しかし、この抽象的な概念を、子どもたちがどう共有できるか。便利で美しい言葉ではあるが、国によって捉え方に相違点も共通点もあるにちがいない。

そこで、二〇一〇年の絵画展にもご協力くださった絵本作家、浜田桂子（はまだけいこ）さんの絵本『へいわってどんなこと？』を読み、そこから共同制作につなげる企画を立てた。この本では、韓国や中国の作家たちとも議論を尽くして考え抜かれた浜田さんの「平和」が提示される。そして後半の一場面に、多くの子どもたちがともに歩む「パレード」が描かれている。この場面を再現してみたい、という提案に平壌の先生方はどう応えてくれるだろうか。

◎

飛行機の窓から外をのぞくと、水をたたえた水田が眼下に見える。平壌近郊はほぼ田植えが終わり、明るい初夏の雰囲気だ。街を抜けて、絵画展に毎年協力してくれている平壌市ルンラ小学校へ。校長先生が、「半年以上会っていないはずだけれど、皆さんはいつも私たちの学校で働く教員と同じ感覚です。どんな企画も歓迎ですよ」と迎えてくれた。さっそく、パレードのページを見せながら説明すると、「今年も楽しいものができそう！ 平和を象徴するものなら、子どもたちもどんどん描けるでしょう、心配いりません」と、即座に趣旨を理解してくれた。

六月六日は少年団創建の記念日で祝日となった。「運動会をするからぜひ明日もいらっしゃい」との言葉を真に受けて翌日「行きたい、行きたい」と大騒ぎし、学校へ連れて行ってもらった。全四学年が、鴨緑江（おうりょくこう）と豆満江（とまんこう）（いずれも中朝国境を流れる川の名前）の二チームに分かれて競っていた。ちょうど一年生の競技が終わったところで、勝った豆満江チーム代表の男の子が大きな包み（文房具でも入っているのだろう）を校長先生から満面の笑みで受け取っていた。次は棒引き。左右から子どもたちが飛び出てきて、自陣のほうに棒を引っ張って集める、日本でもおなじみの競技。ビデオカメラで撮影する先生や、子どもを写真に収めようと前に陣取っているお母さんたちの様子も、日本と変わらない。

■運動会の盛り上がりに国境はなさそう。

いつのまにか先生に強く手を引かれて、競技に飛び入り参加するはめになった。大人たちが、水の入った小さな洗面器を頭に載せ、両腕にふたつのサッカーボールを抱えた状態でリレーする。初心者の脇で先生が世話を焼いてくれ、あたたかい気持ちになった。

## ■「扉」が開かれたあとで

今年も、六月には東京、八月には平壌、そして九月にはソウルと共同制作のリレーがつながっていく。これも、各地域に「どんな未来を子どもたちに託したいか」ぶれない理念を共有できる協力者がいるからに他ならない。折りしも、六月六日には朝鮮側から南北の当局者実務協議の提案があって会談が持たれるなど、南北関係も改善の光が見え始めている。扉の鍵が開いたとき、さらに広くその扉を開くために私たちにも準備できることはまだまだありそうだ。

## スタッフのひとりごと

# パレスチナ人女性のヘアスタイル事情

エルサレム事務所　金子 由佳

イラスト／かじの 倫子

パレスチナに赴任した直後の頃に最大のミステリーのひとつだったのが、「女性はどんな髪型をしているのか？」ということだった。いつもヒジャブと呼ばれるスカーフで髪を覆い、髪型が一切見えないからである。活動の一環でガザの家庭を突撃訪問するようになり、自宅でヒジャブを取った女性たちの姿を初めて見たときは、マジマジ見入ってしまったのを覚えている。

ガザ女性たちは結構な割合で髪を染めている。茶色だったり金髪だったり、いわゆる派手目な色を好んで、既婚者は大概セミロング、若い女性たちはロングで、一本の三つ編みにしていたり、大き目の髪飾りを付けたりする。日本人に比べると、くせ毛や天然パーマ（いい具合にくるくるしている）が多く、目鼻立ちもしっかりしていて、まつ毛も長いせいか、ヒジャブを脱ぐと素晴らしくゴージャスな感じが漂う。

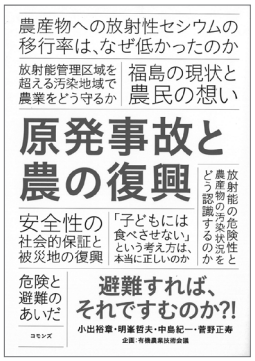
一方、ヒジャブを着用中はおしゃれ心が無いかというと、そうではない。過去10ヵ月間の観察によると、ヒジャブにも3～4種類の被り方があって、2枚を重ねるようにして色のコントラストを楽しんだり（これが最近の流行で、内側に被るものは無地、外側は柄もの）、頭の形をよく見せるために、内側の髪型にわざとボリュームを持たせてヒジャブを被ったり（いわゆる日本女子の「モリ」である）と、髪が見えないなら見えないなりのファッションを楽しんでいる。美しく見せるために女性たちはどこの国でも頑張るのだ。

彼女たちのそんな心意気に触発されて、三十路に差し掛かった私も自分なりのオシャレに挑戦してみるものの、どうもうまくいかない。ウーム、やはり慣れないことは実践よりも見て楽しんだ方がよさそうだ、と自分に言い聞かせる日々である…。

## みるよむきく

# 『原発事故と農の復興 避難すれば、それですむのか?!』

小出裕章・明峯哲夫・中島紀一・菅野正寿著 有機農業技術会議企画／コモンズ／ 1,155円（税込）




放射能は危険だ。だから故郷を捨ててでも逃げたほうがいい。けれど、皆がそこまでシンプルに割り切れるだろうか。ましてや、土と共に生きる農民にとってはどうだろう。

本書は反原発に取り組む学者の小出裕章（京都大学原子炉実験所助教授）と福島二本松で農業を営む菅野正寿、有機農業系NPOの明峯哲夫、中島紀一ら農に関わる人たちの公開討論会（今年一月開催）の内容をまとめたものだ。討論会の冒頭から放射能汚染問題の核心に入っていく。中島は福島では農作物への放射性物質の移行が極めて少なく、ほとんどの農作物が二十五ベクレルの検出限界以下だと話す。すると即座に、小出は二十五ベクレル以下だからといって安心できない、二十四かもしれないと返す。

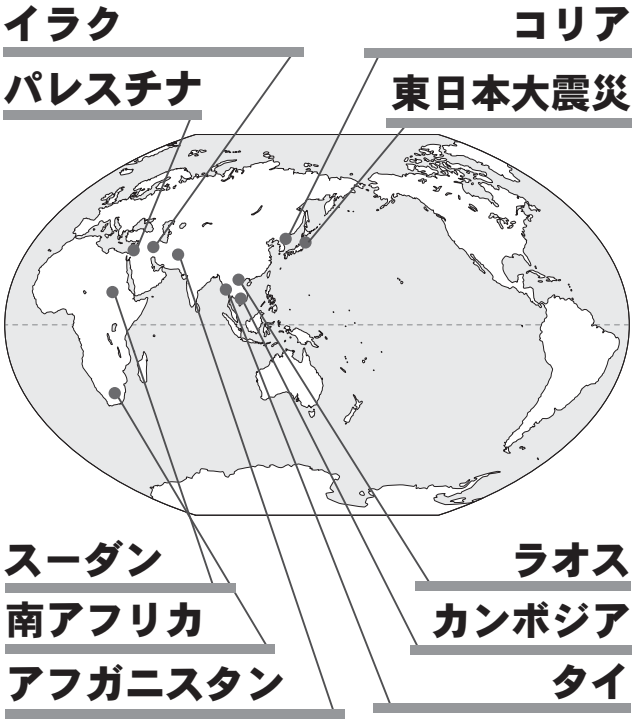
このように、本書ではたびたび小出と有機農業側で意見がぶつかり合う。「小出さんが先ほどおっしゃったこと（筆者注・被爆の危険性）は、よくわかる。よくわかるんですけれども、農業というのは土地を持って逃げる訳にはいきません。（中略）そもそも逃げてはならないし、逃げられないんですよ」と明峯が話す。小出は日本の農民がいかに循環型の社会づくりに貢献してきたかに敬意を表しつつも、「農業を守るためにとどまる決断をするということは、子どもそこにとどめると決断するということです。子どものいない農業はつぶれます」と指摘する。

議論の焦点は子どものことや都市と農村での生き方の違いにまで及んでいく。双方納得することもあればお互いに譲らず平行線をたどることもあるが、意見がすれ違うことはなく、そこに意味が見いだせる。立場は違えど当事者として互いに放射能汚染という答えなき問いに向き合っているからだろう。小出は脱原発論の騎手として世論に訴え、農業者側は今も福島で答えの見えない放射能に挑んでいる。

この本は、「読めば原発問題がわかる」という類のものではない。ページを繰ることに当事者から容易には答えの出ない問いが投げかけられる。「容易には答えの出ない」福島と原発の問題を考えるうえで秀逸な本だ。

（震災支援担当　白川 徹）

## JVC は、現在 9 の国 / 地域と東日本大震災被災地で活動しています。




### 南アフリカ

■みんなで考えた菜園デザイン。力を合わせ実現していく。

**■ HIV/エイズ(リンポポ州)**

3 月 11 ～ 15 日にかけてカウンセリング研修を実施。地域の子どもたちが放課後に集まるドロップイン・センターのボランティアが 3 ヵ村から 16 名、スタッフを含め 18 名が参加した。虐待が疑われる子から相談を受けたり、協力的ではない保護者とどう向き合うのかなど、日々悩みを抱え活動をしているボランティア。この研修では、そんな彼女たちが地域そして子どもたちにとってどのような存在なのかを考え、さらに、子どもたちが困難に直面したとき、どのような心理状態になるのかなどを学習していった。

4 月 9 ～ 12 日には、ヒャンガナニ村のドロップイン・センターで菜園研修を実施。4 名のボランティアを含む 12 名の地域住民が参加。有機農法を実践を交えて学んだ。研修を経て、センターには新たに菜園が設置され、15 ～ 16 日にはセンターに通う子どもたちが参加し、農業体験や果樹植林を行なった。(冨田)

### タイ

■インターンの帰国報告会の様子。

**■農村派遣研修**

インターンシッププログラムでは、13 期生 3 名が 3 月末に帰国し、4 月 16 日に東京で外部報告会を開催した。タイで過ごした約 6 ヵ月間の経験を伝えたほか、タイの農村で学んだ人と人とのつながりを、今後、日本で暮らしていく中で活かしていきたいという思いを参加者に伝えた。次期 14 期のプログラムは 2013 年 9 月の開始を予定しており、その募集を開始した。

**■南タイでの医療支援活動**

南タイにおいて現地 NGO と共同でビルマ人労働者とその家族を対象に医療支援活動を行なっている。2013 年 3 月末まで 3 名のビルマ人保健員に保健医療の研修の機会を 1 年間提供してきた。研修を終えた 3 名は 4 月末に南タイに戻り、現地 NGO の医療チームに合流した。今後、地域での予防啓発活動および医療支援の活動に従事していく。

今後、3 年間継続してきた医療支援活動（緊急医療支援と医療従事者の人材育成）について、現地 NGO と共に評価を行なっていく。(下田)

### ラオス

■森林法律カレンダー配布。クイズも取り入れて説明する。

**■森林保全／農業・生活改善事業（サワナケート県）**

4 月になり雨が降り始めて雨季に入った。雨季に入ると村人は農作業に忙しくなるため、村人との活動の時間調整が難しくなるが、朝や夜の村人が集まることのできる時間に合わせて活動を行なっている。農業では、ラタン植栽の発芽研修を 2 村で行なった。村の中でも特に貧しい村人たちを対象に実施できるよう、実施者の選定を行ない開催した。井戸の排水に問題があったピン郡の村では、排水路を作る工事を村人と行ない、アサポン郡の新規対象村では深井戸の掘削工事を開始した。

森林関連活動では、政府の承認が下りず発行が遅れた 2013 年法律カレンダーの配布を急ぎ、全対象村への配布を完了させた。魚の乱獲を防ぐ魚保護地区設置活動では、ピン郡の対象村と協議を開始した。しかし隣村の合意が得られていないため、引き続き協議を重ねていく必要がある。また 2 月中旬に行なった第 2 フェーズプロジェクトの調印式に続き、カウンターパートである県および郡の農林局職員と調整会議を行なった。グレン、フンパン、ホンケオは JVC 代表者会議などに出席するため、1 週間ほど日本へ出張した。(林)

## 東日本大震災

■4月15日に行なわれた浦島地区振興会設立総会の様子。

**■鹿折地区での復興支援（宮城県気仙沼市）**

平成24年度をもって閉校した浦島小学校の閉校記念事業（閉校式等）への協力を行なった。防災集団移転のアドバイザー派遣では、3地区で相談会を開催し、梶ヶ浦地区では3月末に、大浦地区では4月末にそれぞれ区画決めが行なわれ、個々の家づくりやまちづくりに関する協議がなされた。また、四ヶ浜地域（別名：浦島地区）の振興を目的として4月に設立された浦島地区振興会の設立準備に協力。今後はサポーターという立場で、浦島小学校施設の活用法の検討等について当振興会の活動をサポートしていく。仮設住宅入居者の交流を目的とした「趣味のじかん」では、楽しみながら運動できる「囲碁ボール」や「ノルディックウォーキング」を実施した。（石原）

**■災害FMと仮設住宅サロンの運営支援（福島県南相馬市）**

サロン活動では、地元側からのコミットメントをさらに増やし、社会福祉協議会との協力関係構築も行なっていく。

災害FM支援では、これまでの体制づくり支援に加えて、英語番組の作成の協力も行なっている。英語番組「CommuniKate」はインターネットを通してサイマルラジオのサイトで聞くことができる。

**■福島県の農家と交流（福島県田村郡三春町）**

4月28日には3年目を迎えた「三春 滝桜花見まつり」を協力団体、地元農協の人びとと開催。福島の生産者と県外の消費者をつなぐ会を開き、交流を通じて福島の未来を考える場となった（14ページ参照）。（白川）

## イラク

**■事業体制の再構築**

昨年度の一年間を通じて実施してきた事業評価の結論として、事業の方向性を事業実施における関係者間で充分に共有できなかったこと、事業全体の目的と活動の成果との間の乖離を埋めきれなかったことが確認された。その上で、資金難もあって今年度は専任スタッフをおかずに事務所内でタスクチームを結成して必要最低限の活動を継続しつつ、年度前半においてその後の活動の可能性をさぐることを決定した。（長谷部）

**■「イラク戦争10年」キャンペーン実行委員会**

イラク戦争10年に際してJVC谷山が実行委員会共同代表を務めるイラク戦争10年キャンペーン（イラクテン）に関連して、3月から4月にかけて全国20ヵ所以上でイベントが開催された。総勢500人が参加した3月20日の東京でのメインイベントで採択された「早稲田宣言」を、5月16日に実行委員会から外務省に手渡した。（谷山）

## カンボジア

■レモングラスを使ったお茶づくりをする農産物加工グループのメンバー。

**■生態系に配慮した農業による生計改善（CLEAN）**

07年からシェムリアップ県東部で活動を継続中。対象村の住民のJVCの研修への参加状況や住民の生活を把握するために、6村約1,000世帯の農家を対象にした世帯調査を実施した。農産物加工の活動では、村でよく栽培しているレモングラスをつかったお茶づくりを実践した。簡単につくれておいしいため、村の女性たちに好評である。

**■環境教育（EE）**

09年4月からシェムリアップ県東部の小学校で実施している。村での環境教育活動として、小学校の児童や教員、住民と協力して道路の沿道に落ちているプラスティックゴミを集めて回った。小学校の授業で使用する環境教育の教材もほぼ完成した。

**■資料・情報センター（TRC）**

持続的農業、農村開発、環境に関する資料を94年から提供。6月に開催するファシリテーション講座の準備中で、王立農業大学の学生など20名ほどが応募してきている。

**■技術学校**

85年に政府と合意し、プノンペンで職業訓練校と付設整備工場を運営している。安定して月100台以上の修理台数を確保しており、移転後からだいぶ経営が安定してきた。日本の企業から協力の依頼も多数来ている。（坂本）

## スーダン

■ゴザと防水シートの仮設住居（右はJVCスタッフ）。

**■紛争による避難民・難民への支援**

2年前に勃発した紛争が今も続く南コルドファン州で、紛争被災民である避難民と地元住民に対する生活支援を実施中。4月中旬、紛争当事者である政府と反政府勢力との初めての直接交渉が行なわれたが、その傍らで反政府勢力は州内各地で大規模な攻撃を仕掛け、今まで戦場とならなかった地域にも戦火は拡大、州全体で数万人規模の避難民が新たに発生した。

JVCが活動する州都カドグリ市にも約3,000人の避難民が押し寄せ、市内各所に散らばり仮設住居で生活を送っている。こうした人々に対して、食料配布や給水活動を実施する国連機関や他のNGOと連携を取りながら、JVCは毛布、防水シート、就寝・生活用ゴザ、調理道具といった生活用品の配布を開始。5月中旬までに予定した約600世帯、3,000人への配布を完了した。（今井・佐伯）

## パレスチナ

■初めて子どもの体重を計るボランティア。

**■子どもたちの栄養改善支援（ガザ地区）**

3 月末で 2012 年度対象地区での活動を一区切りし、4 月からは新たにガザ北部のジャバリヤ市ビルナージャで活動を開始した。昨年度と同様、30 名のボランティアを地域で募集・育成し、彼女たちと共に家庭訪問や地域内での栄養・保健教育を展開することによって、地域ぐるみで子どもの栄養失調予防に取り組む。5 月末までにボランティアは座学研修を終え、5 月～ 7 月までに家庭訪問を通した実地研修を実施する。家庭訪問では主に、子どもの栄養検査と家庭登録を行なう。

**■学校保健・健康教育・巡回診療支援（東エルサレム）**

分離壁と長年の占領によって疲弊した東エルサレムで、住民の健康を守る仕組みづくりの一環として、教師・生徒・地元青年を対象に健康教育と救急法に関するトレーニングを継続実施した。5 月までに 4 校の保健委員会のメンバーを対象にしたトレーニング・コースを終了し、JVC スタッフやパレスチナ自治政府の保健師も参加して修了式を行なった。4 月後半には日本から保健専門家を招き、活動の評価と質の向上に取り組んだ。

**■広報活動**

現地代表の今野が一時帰国し、東京で 2 回、大阪で 1 回、帰国報告会を開催した。大阪での報告会には 60 人近い参加者があり、東京での報告会も定員を超えて盛況であった。今年夏には、パレスチナ現地を訪問するスタディツアーの開催を予定しており、その準備をすすめている。（今野・金子）

## アフガニスタン

■隣国パキスタンでアフガン人スタッフ（左）と協議。

**■女性と子どもの健康改善のための地域保健医療事業**

ゴレーク村の保健委員会が井戸の調査を終了し、カルキの投入開始した。クズカシュコート村に続く衛生的な水の確保のための活動となる。母親教室は第 6 期が始まり、新たに 135 人の女性が参加中。また、これまでの修了者から 60 名の家庭を訪問し、教室での健康教育の指導内容の実践状況を確認した。6 ヵ月前の訪問時よりも多くの家庭で身の回りを清潔にするなど、病気の予防につながるような改善が見られた。今年度も実施予定。

**■教育支援活動**

女子学校で応急手当研修を実施し、JVC の女性スタッフがトレーナーとして参加した。今回初めて人体模型を使った演習も行ない、生徒の関心も高かった。また、本活動の中間評価を今年秋口に控えており、その準備として、教員を対象に実施してきた健康教育研修の内容がその後学校の衛生状態に反映されているかのモニタリングを行なった。

**■政策提言**

日本政府によるアフガニスタン国別援助方針に対してパブリックコメントを提出した。「アフガニスタン地方警察（ALP）」の問題点（外国軍撤退に合わせ性急に展開）の指摘や、そうした武装化が進む中で日本政府が実施してきた武装解除支援の検証、基礎サービスや格差解消に焦点をあてた開発援助、市民社会との連携などの必要性について要請した。また、治安担当のスタッフの来日に合わせて、同様の点に関して議員や外務省への提言を行なった。（加藤）

## 調査研究・政策提言

**■プロサバンナ事業意見交換会（第 3 回：4 月 19 日、第 4 回：5 月 10 日）**

事業は現在マスタープランの策定過程にあるが、そのプロセスで農民の声が十分に聞き届けられていない。その一方で、リークされたマスタープランのドラフトによれば企業優先の大規模農業開発が中心であることが明らかになった。この問題意識の下、「現地ステークホルダー・ミーティングについて」（第 3 回）及び「マスタープラン中間報告書ドラフトについて」（第 4 回）について議論した。また、3 月下旬にはモザンビークから農民の代表 3 名が来日し、外務省への表敬訪問を行なった。

**■開発協力適正会議（4 月 23 日）**

ミャンマー、インド、ジンバブウェに対する 4 案件について検討。ミャンマーの「中小企業育成及び農業・農村開発ツーステップローン事業」プロジェクト形成に対して他国での実態を踏まえて農村金融の懸念点を指摘した。（高橋）

## コリア

**■絵画交流『南北コリアと日本のともだち展』**

「南北コリアと日本のともだち展実行委員会」で、2013 年度の事業計画を立案している。今回は、絵本『へいわってどんなこと？』をベースにして、各地域の子どもたちと平和について考える機会を設けるとともに、絵本の一場面を再現する共同制作「みんなでパレード！」に取り組む。その皮切りとなるワークショップを 6 月に東京で開催するための準備をすすめた。また、ソウルや平壌でも同様の行事ができるよう協議を重ねている（9 ページも参照）。

昨年から北東アジア地域では緊張が続き、「絵を通じて相互理解を深め、ともだちをつくる」という『ともだち展』のコンセプトが受け入れにくい空気もある。そのようななかでも、どのような未来を望むのか、平和のために何ができるのか、これまでの積み重ねを活かしながら地域の仲間たちと改めて考える契機となる行事を目指していく。

（寺西）

# 国内ひろば

JVC network

## 福島 三春町から

### 深まった三春花見まつり「収穫祭」にまた会おう

福島「農と食」再生ネット　西沢 江美子

四月二十八日(日)。三・一一から三度目の滝桜(たきざくら)花見まつりを開くことができた。主催は福島・三春町芹ヶ沢農産加工グループとJVCも加わっている滝桜花見実行委員会、福島「農と食」再生ネットによる。

異常なこの春で、滝桜はすっかり散り、夏の準備をしていた。風雪を耐えてしっかりと根を張った巨大な幹と緑をおびたウグイス色の花柄で桜の木は、私たちを迎えてくれた。

現地の人を除いた約七十人の参加者は、この花が終わり夏へ向かう桜の巨木に、様々な感動を得た。「桜の木に心を見すかされるような気がしました。なんとなく滝桜へ行くと来たのだけど、それではいけない。ここで(放射能下で)生活している人の苦しみを共有しなければ」(東京・商社勤務三十代女性)、「花桜と葉桜は知っているけど、花と葉の中間の桜を見るのは初めて。表現できないけど、なんだか原発ゼロへの道をこの巨木は示しているそう」(埼玉・年金者六十代男性)――滝桜に自分やいまを重ねた声ばかり。不思議と「花がないなんて」という声皆無。

◎

交流会は、地元の農家の人、農業女性など約百人が加わり「三春の里田園生活館」(三春町)で行なわれた。始めに三春町の鈴木義孝町長さんとJAたむらの佐久間浩幸営農経済部長さんから、町とJAの放射能被害以後の暮らしや農業への取り組みとこれからを短い時間で聞くことができた。それから約八十分、三グループに分かれて、さまざまな話し合いをすることになった。

この交流会には、さまざまな立場、悩みや時間や経済的な問題を抱えながら参加した人も多い。田植え最中だが、「田植えを優先することはできない」と、田植えを一日延ばして八人の仲間と参加した山形の人たち。「花見と収穫祭で、これで三回目の参加。JAの人と地元の女性たちの顔も覚えた」と、交流会の司会を引き受けてくれた茨城と宮城の仲間。

そんな実行委員でない人たちの力を借り、どのグループも地元の人たちとの話し合いは広がっていった。原発、放射能汚染、放射能測定、補償から食べものの安全はもちろん、いま農業のかかえる問題まで。時間がたりない。「この続きは収穫祭で」と参加者からの約束の言葉でしめくくられた。

◎

帰路はJAたむらの都路地区(避難指示解除準備区域)で、この春からやっとキュウリの出荷ができるようになった生産者のハウスをたずね、その苦労のほんの少しを知ることができた。

■今年も私たちを迎えてくれた滝桜。

■交流会では皆が思いおもいに口を開いた。

## 新スタッフ紹介

宮西(みやにし) 有紀(あき)　支援者担当

海外で暮らしていたことから、子どもの頃から自分の「アイデンティティ」を意識することが多く、〝世界の現状を知ってもらう〟ことで〝民族間の相互理解〟へつながるような仕事がしたいと考えるようになりました。昨年、グローバルフェスタのチャリティランでボランティアに参加した際にその支援先としてJVCを知り、幅広い活動や温かい雰囲気に惹かれ、社会人二十年目でNGOの世界へ飛び込むことを決めました。

前職ではポータルサイトでインターネット広告に従事、仕事に没頭してきましたが、趣味ではタップダンスをもう十九年続けています。タップをもっとメジャーにしたいと目論(もくろ)む今日この頃です!

## 募金にご協力ありがとうございます

JVC の活動は、皆さまの募金に支えられています。
JVC への募金は税制優遇措置を受けることができます。

### ① JVC 募金（郵便振替）

JVC の各国での活動に役立てられます。募金先をご指定いただくこともできます。

**口座番号：**00190-9-27495
**加入者名：JVC 東京事務所**

3 月計　1,877,711 円
4 月計　609,116 円

| | 3 月 | 4 月 |
|---|---|---|
| 無指定 | 27,578 円 | 34,956 円 |
| タイ | 100,000 円 | 0 円 |
| カンボジア | 506,751 円 | 0 円 |
| ラオス | 535,184 円 | 492,500 円 |
| 南アフリカ | 0 円 | 3,000 円 |
| パレスチナ | 206,480 円 | 30,480 円 |
| アフガニスタン | 116,645 円 | 37,000 円 |
| コリア | 0 円 | 0 円 |
| イラク | 0 円 | 0 円 |
| スーダン | 0 円 | 0 円 |
| 東日本大震災 | 385,073 円 | 11,180 円 |

※上表には「夏 / 冬の募金」は算入していません。

### ②犬養道子「みどり一本」募金

JVC 活動地での環境保全活動に使われます。

**口座番号：**00100-8-212497
**加入者名：犬養道子「みどり一本」**

3 月計　35,500 円 / 9 件
4 月計　79,500 円 / 8 件

### ③ JVC マンスリー募金

銀行や郵便局の口座、クレジットカードから自動引き落としできる手軽な募金方法です。

3 月計　2,250,950 円 /1,931 件
4 月計　2,230,950 円 /1,926 件

## 編集後記

ワールドカップアジア最終予選は無事通過。02 年の躍進と自失、06 年の絶望と喪失、10 年の望外な渇望を経て、来年の祝祭に向けての準備も最終段階。コンフェデに加えて親善試合も多数あるので戦術浸透は可能と見るが、「予選突破」の足かせが外れたとはいえチームに合わなければ得点王にすら声をかけない慎重なザックのこと、本番までにどれだけ新戦力を組み込めるか…(H)

# 2013 年度東京事務所インターン紹介

今年の東京事務所インターンは過去最多クラスの９名！
これまでの経歴も多彩で、にぎやかな一年になりそうです。

■前列左から：本丸、倉持、大村。後列左から：高野、横山、舞木、曽根。左枠：棚田、右枠：辻。

**大村 真理子**（広報・会員）
真夜中の残業中に見つけた募集記事を見て「これだ！」。朝には応募書類をポストに投函していました。普段は企業で働いている一会社員の私を見て、今までの私のように「興味はあるけど動いていなかった人」が動くきっかけになれば！と思います。

**倉持 祐香**（ホームページ）
ＮＧＯとどう関わり自分に何ができるのか悩んでいた時にＪＶＣと出会いました。アットホームな雰囲気の中で、より多くのことを学び、この一年の間に自分なりの答えを模索したいです。

**曽根 啓太**（アフガニスタン事業）
アフガニスタンの国家建設に興味を持ち始めた矢先に、アフガニスタン現地スタッフの報告会でＪＶＣを知り、インターンに応募。ＪＶＣの理念や活動について学びたいと思います。

**高野 隼平**（カンボジア・ラオス・タイ事業）
インターン初日に担当の山崎さんから「高野くん、なんかパンチのあることやって」という一言をいただき、考えた末にカンボジアでのホームステイを決めました。活動とともにクメール語の勉強を頑張ります！

**棚田 丸輝**（パレスチナ事業）
ミクロの視点で国際協力に臨むＮＧＯで、読書では知りえない経験を得たいです。気さくなスタッフ、フレンドリーで熱い思いを持つインターンやボランティアから刺激を受けています。

**辻 愛麻**（調査研究・政策提言）
各国事業とは少し異なる政策提言部門の魅力、現場にいる人から離れた人まで、開発に関わる人が「Best」とは何かを話し合えるところに惹かれました。

**本丸 愛子**（会計）
他団体での活動時に、現場で前向きに動くスタッフの姿勢に共感したのがＪＶＣとの出会い。考えるより先に行動に出てしまう人間なので（過去失敗も多々…）、会計を学んで地に足ついた活動につなげたいと思います

**舞木 光**（アフリカ事業）
教員になって世界の現状や国際協力を「伝える」ことで、外の世界に目を向けるきっかけ作りをしたいです。知ってるようで知らないアフリカ、ところで今日のランチは何にすーだん？

**横山 和夫**（気仙沼事業）
宮城県仙台市の出身です。東日本大震災で生まれ育った地域に暮らす人々が困難に直面する様子に衝撃を受け、公益性があり社会の役に立つ仕事へのキャリアチェンジを決意しました。インターンでの経験をもとに、人生の次のステップを熟考していきたいと考えております。

**JVC ウェブサイト 会員専用パスワード（2013 年 7 月～ 8 月）：**
**4zCqcePAWf**
JVC ウェブサイトから T&E のバックナンバーをダウンロードするときに必要です。

Trial & Error（試行錯誤）三百二号
二〇一三年六月二十日発行（通巻三百二号・隔月二十日発行）
発行人＝谷山 博史
編集人＝大野 和興・長谷部 貴俊
編集スタッフ＝細野 純也
発行＝日本国際ボランティアセンター（JVC）東京事務所
〒一一〇-八六〇五 東京都台東区上野五-三-四 クリエイティブOne秋葉原ビル六階
電話（〇三）三八三四-二三八八 FAX（〇三）三八三五-〇五一九
印刷＝ベスト・プリンティング
定価＝五〇〇円（税込）

JVC ブックレットシリーズ 004 刊行。

# タイの田舎で嫁になる

## 野性的農村生活

タイ現地駐在員
森本 薫子（もりもと かおる） 著

定価 997 円（税込）

JVC ブックレット第 4 弾が発行されました。今回の舞台はタイ東北部の農村です。虫や爬虫類が登場する食生活や、地域ぐるみの子育て、雨の恵みから得る飲み水…。日本とは違う価値観の中に見つけた、ゆるく強く生きるタイ人の力。タイ人と結婚し、子育てをしながら農村で暮らす森本薫子の「嫁」生活を通して、循環型の暮らしについて考えさせてくれる一冊です。

オンラインストアや一般の書店でお買い求めいただけます。
JVC 東京事務所でも販売しております。下記連絡先までお問い合わせください。
TEL：03-3834-2388、FAX：03-3835-0519、E-mail：info@ngo-jvc.net
■好評既刊：『イラクで私は泣いて笑う』、『ガザの八百屋は今日もからっぽ』、『NGO の源流をたずねて』

JVC Japan International Volunteer Center

日本国際ボランティアセンター（Japan International Volunteer Center）は、1980 年 2 月、タイのバンコクで誕生した市民による国際協力団体です。JVC の活動目的は、国際社会のなかで、社会的、精神的、物理的に困難な立場を強いられているアジアやアフリカ・中東の人びとに協力すると同時に、地球環境を守る新しい生き方と人間関係をつくり出そうということにあります。そのため私たちは、自らの意志で JVC に参加し、活動を継続してきました。JVC はボランティアという言葉を、「自発的意志をもって、責任ある行動をとる」という意味で団体名として使っています。

### ■ JVC では会員を募集しています。

会員は総会に出席し、JVC の方針などを決定するほか、情報・資料の入手、各種の活動・報告会・学習会等へ参加することができます。会員の方には年 6 回この会報誌と年次報告書をお届けします。

◎一般会員　10,000 円
◎学生会員　5,000 円
◎団体会員　30,000 円
※それぞれに正会員と賛助会員があります。

入会のお申し込み、会員の方の住所変更などは会員担当の寺西へ。　→ s-tera@ngo-jvc.net

会員数（6 月 8 日現在）　合計 1,132 名
（正会員 555 名、賛助会員 577 名）

### ■オリエンテーション（説明会）にお越しください。

JVC の活動内容をご紹介しています。お気軽にご参加ください。
会場は JVC 東京事務所、参加費は無料、予約不要です。
◎第 1 月曜日午後 7：00 － 8：30
◎第 2・第 4 土曜日午後 2：00 － 3：30

■ E-mail
info@ngo-jvc.net

■ウェブサイト
http://www.ngo-jvc.net/

※本誌の記事・写真等の無断転載・複写を禁じます。

※本誌は、日本の森の間伐材を有効利用して作られた用紙「間伐材印刷用紙」（古紙 90%、間伐材パルプ 10%）で作成しました。